

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870300880
法人名	(有) ひだまりの会
事業所名	グループホームいぶき
所在地	愛媛県宇和島市伊吹町甲1368-3
自己評価作成日	平成28年1月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームでは、利用者の方とスタッフが“ありがとう”と感謝しあえるよう努めており、笑顔の絶えないホームです。また、ご近所の方とお付き合いを大切にしており、イベントを年数回開催し、ご近所の方にお越しいただいて親睦を深めるなどして楽しく毎日を過ごせています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 玄關入口のプランターの花は、近所の方の協力を得て利用者と一緒に植え替えを行っている。玄關にはスイセンが活けてあり、廊下には凧や鏡餅等の飾り物を置いていた。玄關に飾っている人形は利用者がかわいがっており、季節ごとに洋服を着替えさせて頭をなでる等している。居間にある量の部屋には、ソファベッドを置き、見守りが必要な利用者が休んでいた。
- 近所の方が利用者の散髪をしてくれたり、芋炊き作りや庭の花の植え替えを手伝ってくれたりする。納涼祭を行う際には、屋台を出して利用者や地域の方にも喜ばれている。秋祭り時には、事業所が子供牛鬼の休憩所になっており、利用者は子供達との交流を喜んでいる。
- 年1回、家族会として事業所で食事会を行っており、今年度は8家族の参加があった。利用者は、ご家族来訪時、とても良い笑顔になるため、管理者は、今後も継続して多くの方に参加してもらえよう工夫したいと話していた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 (有) ひだまりの会

(ユニット名) グループームいぶき

記入者(管理者)

氏名 田中ちとせ

評価完了日 平成 28 年 1 月 12 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「この地で楽しく、いきいきとし安心して暮らせる」を理念とし、実践につながるよう努力している。 又、地域の方との交流も増えてきている。	
			(外部評価) 理念とともに、「ありがとうと感謝、助け合い、笑い顔が絶えない毎日でありますように」というスローガンを掲げている。ミーティング時には、「地域の方にも挨拶することを忘れないようにしましょう」と話し合っており、管理者は「地域の役に立つグループホームにしていきたい」と話していた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 日常的とはいえないが交流している 納涼祭・いもたき・秋祭り等楽しく交流させてもらっている。 又、2か月に一回、一時間程度だがお茶会(認知症カフェ)をしている。	
			(外部評価) 法人では、近所に案内して2ヶ月に1回「認知症カフェ」を開いており、毎回、5、6名の参加がある。カフェでは、ストレッチや紙芝居をしたり、次回は、ボランティア「ぬくもりの会」が来て、紙芝居やゲーム、踊り等で楽しませてくれる予定がある。カフェは、地域の方同士の出会いの場にもなっている。近所の方が利用者の散髪をしてくれたり、芋炊き作りや庭の花の植え替えを手伝ってくれたりする。納涼祭を行う際には、屋台を出して利用者や地域の方にも喜ばれている。秋祭り時には、事業所が子供牛鬼の休憩所になっており、利用者は子供達との交流を喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症カフェを利用し、認知症のことを知ってもらっている。 又、キャラバンメイトの研修もさせてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の方々や他グループホームの方達、又、市職員さんからの情報を得、充分とはいえないが取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議には、自治会長や地域住民2名ほどの参加があり、事業所から活動・入居状況報告を行い、意見交換したり、地域防災について検討したりしている。市内2ヶ所のグループホームとは、相互に会議に参加しており、交流運動会も行っている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>積極的に取り組んでいるとはいえないが、推進会議等で情報を頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議に市の担当者の参加があり、熱中症や感染症、介護保険情報を提供してもらっている。市から「認知症カフェ」の開催を提案してもらい、平成26年7月から事業所で実施している。近所に住む認知症高齢者について市から相談があって、管理者が時々訪問して見守りの協力を行っている。認知症カフェにも参加できるよう誘っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>絶対拘束をしていないとはいえない。言葉掛けに拘束を感じる時がある。 昼間は施錠していない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>相互研修に参加した職員は、ひとりで出かけて行く利用者の支援について、「止めるような言葉を使わなくても、利用者に付いて行く等して支援できる」ということを学んだ。ベッド柵に鈴を付けたり、転倒の危険性がある利用者には床にマットを敷き、その上に布団を敷いて対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			ミーティング、気づいたときに意見を聞いている。改善できることはしている。	
			(外部評価)	
			法人代表者・管理者でテーマを決めて、毎月のミーティング時に研修を行っている。キャラバンメイトの職員が中心となつて、年に1回、認知症サポーター養成講座を開いている。そのような取り組みが職員自身のスキルアップにもつながっているようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員の目標をかかげて取り組む。資格により給料も決めている。(会社負担で介護福祉士を受験してもらう)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			県社協研修、GH協会研修、市関係研修、他民間の研修も受けつらいながら、自社研修もしている。又ミーティング時に勉強会もしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			研修、推進会議、グループホーム連絡会、相互研修等で交流を図っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			普段の様子や会話の中から聞き出したりして、なるべく希望に添えるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価)	
			開始する段階で色々お話を聞かせてもらっている。又、来られた時、月一度の手紙(写真も添えて)電話等で努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価)	
			充分とはいえないが努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価)	
			家事を手伝ってもらったり、食事・おやつなど共に過ごす時間を持つよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価)	
			月に一度の手紙で本人の様子を知らせたり、来訪された時に話をするようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)	
			本人が若い頃に好きだったことや、得意だったことをかいわや家族の情報から聞き出し、行ってもらうように努めている。	
			(外部評価)	
			住んでいた地域の秋祭りに出かけられるよう支援している。ご自宅の近所の方が訪ねて来た際には、居室でゆっくり過ごせるよう案内している。調査訪問日の昼食後には、他利用者のお膳も一緒に下げられるような方が見られた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	充分ではないが努めている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	対象者はいないが、ご家族さんと季節の便りなど、やりとりはある。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	日々の会話、様子などで判断することもある。
			(外部評価)	
			裁縫の得意な利用者にはボタンつけや繕い物をお願いしたり、料理屋を営んでいた方には、接待役をお願いして、それぞれの得意なことや持っている力を発揮できるよう支援している。24時間シートには、職員と利用者の言葉のやり取り等を詳細に記録して、思いや意向の把握に努めている。	日々得た利用者の情報を整理して、介護計画につなげる仕組みを作してほしい。利用者の思いや意向を踏まえた利用者主体のケアにつなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	努めてはいるが、十分に聞き出せていない。話して行くうちにわかることもある。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	把握に努めるため、毎日の声かけを欠かさないようしている。バイタルチェック等も。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月一回のミーティングで各職員が意見を出し合い情報を共有するよう努めている。又、家族の意見もその都度確認し、本人家族の希望により近づけるよう見直している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月のミーティング時には、利用者の現況について話し合い職員で情報共有している。介護計画は、3ヶ月ごとに見直しをしており、状態変化があれば、その都度見直しを実施している。計画作成担当者は、個別性を大切に考えており、利用者が不快な思いをしない生活ができるような計画作成に取り組んでいる。「家に帰りたい」希望のある方には、家に帰ることを目標に挙げ、身体機能向上に向けて支援している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>センター方式を採用し、細かい記録を残し、気づきのあつたときにはその都度話し合い情報を共有する。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>認知症カフェが今年の8月にオープン。コーヒーを飲んだり行事に参加したりしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>充分とはいえないが、納涼祭、秋祭り等を楽しんでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月一回の往診と、体調不良時には受信・電話連絡等で指示をあおいでいる。 又、必要時には家族さんに先生より話してもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>協力医は、月1回往診に来ており、又、気になることがあれば電話で相談できる体制がある。看護職員は毎週日曜日に出勤して、利用者の健康管理を行っている。受診については、職員やご家族で協力し合って支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>週に一度(4時間)ではあるが看てもらっている。様子を伝えて相談し、アドバイスをもらっている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には様子をくわしく説明する。 度々訪問し安心してもらえるよう努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人さんからは聞くことはできないが、家族さんと話し合い、かかりつけ医と相談しながら取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>これまでに2名の看取りを支援した事例がある。職員は利用者が不安にならないように心がけて支援した。利用者の体調変化時を捉えて、ご家族と看取りについて話し合っており、現在、「延命はいらない」と意向を示す方が多いようだ。終末期のあり方について、利用者ご本人の思いや意向についても情報収集できるよう、取り組んではどうだろうか。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的には行っていないが、日頃の介護の中で身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 充分とはいえないが、少しずつ身につけているのではないだろうか。防火訓練のDVDを観て研修している。地域の方も訓練に参加してもらい、意見をもらっている。	
			(外部評価) 職員を含めた「自衛消防隊」の仕組みを作っており、消火・救出・救護・地元班と役割分担して、連絡網を作成している。地元班には、地域の方の意見を採り入れて、避難した利用者の見守りが役割となっている。居室は掃き出し窓で、直接外に出られるようになっており、火災発生時には、毛布や布団を外に敷き、利用者を降ろすことになっている。以前、夜間に地震が発生した際には、近所の方が一番に駆けつけてくれた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 充分とはいえないが心がけている。	
			(外部評価) 事業所では、笑顔と言葉遣いに気を付けており、管理者は職員の気になる場面があれば、その都度注意等している。 飲み物を利用者に勧めるような際、声かけや対等について配慮や工夫が必要と感じるような場面が見られた。この機会に、利用者への対応や利用者主体の支援について点検してほしい。利用者が自力行おうと思えるような場面作りに工夫を重ね、個々の意欲や自信につなげてほしい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 充分ではないが心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	
				なかなか希望を表される方が少ない。 希望にそって支援することは、なかなか難しい。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)	
				自分でできない人には職員が気を付けている。自分で出来 る人には支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	
				出来る方には活躍してもらっている。
			(外部評価)	
			ごぼうそぎや下ごしらえ等、利用者のできることを行ってもら えるよう、職員がお願いして支援している。昼食時には、生 青さ海苔のお汁が用意されており、職員は利用者「春で すね」「いい香りですね」等と話していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	
				体重が増えた方には、量を調節している。 水分を摂ってくれない方には、色々工夫している。OSIゼ リー、OSIキューブを作って食べてもらっている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	
				完全とはいえないがしている。 イソジン・スポンジ・歯ブラシティッシュを使っている。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	介助が必要な人も、日中はなるべくトイレで排泄してもらうよう心がけている。	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	水分、センナ茶、バナナ、ヨーグルト等で充分とはいえないが予防に取り組んでいる。	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	基本的に1日おきに入浴してもらっているが、失禁等があったり、本人が希望する時には希望に添うようにしている。	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	夜間ゆっくり休んでもらう為に、日中はなるべく起きてもらったり、出来る仕事をしてもらって昼夜の区別ができるようにしている。	
			(外部評価)		

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 努めている。 変化を見極め主治医と相談しながら支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの能力や好きな事を探し、出来る仕事をしてもらったり、ドライブやカフェに行くことで楽しんでもらうよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望を尋ねることはしていない。 本人さんの希望とはいえないが、時々外出している。地域の方の協力はまだ得ていない。 外出できる方が限られてくる。	
			(外部評価) 食材の買出し時に、利用者も一緒に出かけて好みのお菓子を買っている。法人が行う認知症カフェには、利用者も時々出かけて、地域の方達と一緒に小物作り等をしている。お祭りや花見には、順番に少人数で出かけられるよう支援しているが、管理者は、行きたいことを表せない利用者の支援についても今後、工夫したいと話していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理が出来る方がほとんどおられない。買い物に行った時に支払ってもらう。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 時々はしているが、充分ではない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>充分ではないが工夫している。 生花・壁飾りを変え季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関入口のプランターの花は、近所の方の協力を得て利用者と一緒植え替えを行っている。玄関にはスイセンが活けてあり、廊下には凧や鏡餅等の飾り物を置いていた。玄関に飾っている人形は利用者がかわいがっており、季節ごとに洋服を着替えさせ頭をなでる等している。居間にある畳の部屋には、ソファベッドを置き、見守りが必要な利用者が休んでいた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>気の合った方がおしゃべりできるよう廊下にソファを、食堂にもソファでくつろげるよう工夫している。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>使い慣れたものを持ってこられている方もおられる。家族の写真、ホームで写した写真を壁に貼っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は、居室に花を絶やすことがないよう気を付けており、利用者にたいへん喜ばれている。中には、亡きご主人の写真のそばに飾る利用者もある。テレビやダンスを持ち込む方やご家族が鉢花を持ってきたり、ひまごの写真飾っている方もいる。交流運動会でもらったメダルを飾っている方が数名あった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>各自部屋にトイレ・洗面台があり、安心してゆっくりできる。</p>	